

校長のつぶやき

校長室便り 第12号

令和元年6月6日 山内



○岩高生文化面での活躍

～みずみずしい感性31字に 歌集「岩高短歌」を発行～

5月29日(水)地元紙「大崎タイムス」で本校の短歌の取り組みが報じられました。実は在県のテレビ取材も予定されていたのですが、急遽キャンセルとなり少し残念でした。

大崎タイムスで報じられたとおり、本校では生徒の主体性、感性や表現力を伸ばそうと平成19年から全校をあげて短歌学習を始めました。「主体的・対話的で深い学び」「思考力・判断力・表現力」と今言われていることを10年以上前から岩高では取り組んでいました。今回の取材では昨年全国高校文芸コンクール短歌部門で岩高から五年ぶりに入選した2年3組の菅原滯さんの作品が取り上げられました。私が他校にいる時から岩高の短歌の取り組みは有名でした。これからも全校あげて取り組みましょう。

「ゆるやかに絶えず流れる川風が背中を押しゆくぼくは草舟」

～調理部 食楽祭りに出店～

6月15日(土)、16日(日)鳴子で行われる食楽祭りに出店する調理部の2年生の皆さんが試食にとできたてのマドレーヌを届けてくれました。とてもおいしいので当日は大丈夫です。私が保証します。岩高は「地域と共に」「地域に学び、地域に育ち、地域を担う」がスローガンです。大崎地域の皆さんから多くのことを学び、少しでも地域に貢献できるように頑張りましょう。



〔児玉さん(左) 大場さん(中) 千葉さん(右)〕

○岩高生運動部の活躍

～総体速報 バドミントン部 弓道部 卓球部 バレーボール部 感動をありがとうございました。～

6月1日～3日まで県内各会場で県総体が行われました。すべての競技の応援はできませんでしたが、仙台会場のバドミントン、弓道、卓球を応援してきました。すべての競技で岩高生は頑張りましたが中でも印象的だったのが卓球部女子です。同部は昨年秋の新人大会で十数年ぶりに県大会出場を果たしました。当時の2年生は部長の佐藤菜乃花さんたった一人。佐藤さんはたった一人でも辞めずに岩高卓球部をつないでくれました。そしてこの春、佐々木珠莉奈さんはじめ有望な1年生が入部し、大崎予選を突破し、総体も十数年ぶりに県大会出場を決めました。団体一回戦で敗れはしたものの手に汗握る本当にいい試合でした。シングルス1年生佐々木さんは仙台の上級生を次々と撃破し、最終日の4回戦で新人大会優勝の第一シードの選手と戦いました。敗れたものの7-7まで追い詰める場面もあり、本当に感動しました。今後は楽しみです。

試合を見ていて気付いたことがあります。卓球競技は「生徒が審判」を行うのですね。しかも敗者が次の試合を行うという厳しいものです。実は佐々木さんの試合の審判は私の前任校石巻西高の3年生でした。その子は悔しいだろうに涙をぐっとこらえてしっかり審判を行いました。岩高の佐々木さんもそうです。敗れた直後にしっかりと審判までやりきりました。「スポーツの魅力は負けを知ること」上手い出来ない時のふるまいがその人の人間性を表します。私はあのふるまいを見て胸が熱くなり、岩高の校長であることを心から誇りに思いました。私は去年も今年も素晴らしい生徒に恵まれて本当に幸せです。それでは今回の校長のつぶやきはこれでお終いです。 「夢やぶれ なくしたものが多かれど 得たものの数 計り知れなん」